

兵庫・対中遺跡
たいなか



(三田)

対中遺跡は六甲山地北側の三田盆地にあり、標高一四九m付近の段丘上に位置する。遺跡は都市計画街路三田幹線建設に伴い調査され、木簡が出土した対中地区と広畑・森下地区に分かれる。対中地区からは弥生時代後期の溝や土坑、奈良時代の掘立柱建物三棟、平安時代後期から鎌倉時代初期までの掘立柱建物九棟、井戸一基、木棺墓一基などの遺構が検出された。

- 1 所在地 兵庫県三田市対中町対中
- 2 調査期間 対中地区 一九八四年(昭59)八月～二月
- 3 発掘機関 兵庫県教育委員会
- 4 調査担当者 吉田 昇・深井明比古
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代、奈良時代、平安時代末～鎌倉時代初頭
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

木簡出土遺構は井戸一である。掘形の規模は一辺一・七m深さ二・七五mで、一辺〇・八mの方形隅柱横棧の木組み井戸である。この井戸からは土師器・瓦器・須恵器・磁器、木製品として木簡・曲物・槌の子・横槌・鋤先・箸など、骨角器として鹿角が出土した。木簡は一点出土し、年代は鎌倉時代初頭と考えられる。

木簡以外の文字資料には墨書土器が三六点あり、主な文字としては「判選」「判定」「上枿」「大房」「僧^{〔器カ〕}」「僧^{〔器カ〕}」「僧^{〔器カ〕}」などが判読できる。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「南□奈□化□大□□蘇□□孫也□□

(503)×42×5 019

上端は角を落としやや丸みを持ち、下端は欠損する。文字中に「蘇□□孫也」が判読できることから、蘇民将来の呪符木簡と考えられる。木質はヒノキである。また墨書土器には「僧」の文字があることから、寺院関係の施設の存在も考えられる。

9 関係文献

兵庫県教育委員会「対中」(兵庫県文化財調査報告書六〇、一九八八年)
(深井明比古)

